第０８－０９７号
２００８年7月３１日

平成２１年3月期 第1四半期業績について

ANA グループでは、本日7月３１日（木）、平成２１年3月期 第1四半期決算を取りまとめました。詳細は別添の「平成２１年3月期 第1四半期決算短信」をご参照ください。

１．平成２１年3月期 第1四半期の連結業績

（1）連結経営成績

①概況

・欧米路線のビジネス需要が堅調に推移した国際線旅客収入、及びネットワークと輸送力の拡充により輸送重量を大きく伸ばしている国際線貨物収入が前期を上回りました。
一方、国内線旅客においては航空他社や他交通機関との競合の中で、路線ネットワークの適正化などによる提供座席数減少の影響もあり、減収となりました。

・費用面では、費用変動の抑制を目的としたヘッジの効果で燃油費が微増に止まるとともに、引き続きコストの抑制に努めました。

これらの結果、当期の連結経営成績は、営業利益が１４６億円、経常利益は１１０億円、四半期純利益は６６億円となりました。

単位：億円（億円未満は切り捨て）

【連結経営成績】	平成２１年3月期 第1四半期	平成２０年3月期 第1四半期	増減	前年同期比(%)
営業収入	3,455	3,496	▲ 40	98.8
営業費用	3,309	3,363	▲ 54	98.4
営業利益	146	132	13	110.5
営業外損益	▲ 35	▲ 64	28	――
経常利益	110	68	42	162.7
特別損益	9	1,323	▲1,314	0.7
四半期純利益	66	873	▲ 807	7.6

単位：億円（億円未満は切り捨て）

【セグメント情報】	平成２１年3月期 第1四半期		平成２０年3月期 第1四半期		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
航空運送事業	3,075	145	3,059	121	15	23
旅行事業	415	▲ 4	466	1	▲ 51	▲ 6
その他の事業	365	3	477	9	▲ 112	▲ 5

※連結子会社７７社　持分法適用非連結子会社5社　持分法適用関連会社１８社

全日空広報室 03-6735-1111 成田 0476-34-7042 羽田 03-5757-5548 伊丹 06-6856-0270 関西 072-456-7342

②国内線旅客事業

・競合他社や他交通機関との競争が激化するなか、需給適合の強化や「旅割」などの割引運賃の柔軟な設定によるプレジャー需要の喚起、ビジネス需要向け運賃・サービスの提供など収益性向上、競争力強化に努めました。

・需給適合を進めた結果、提供座席数が前期比９６．０％と減少したため、旅客数は前期比９７．２％となりました。

結果として、国内線旅客収入は前年同期比９８．０％の３３億円の減収となりました。

（売上高の億円未満は切り捨て）

【国内線旅客事業】	平成２１年３月期 第１四半期	平成２０年３月期 第１四半期	増減	前年 同期比(%)
売上高（億円）	１，６６４	１，６９７	▲　３３	９８．０
旅客数（千人）	１０，４５４	１０，７５７	▲３０３	９７．２
座席キロ（百万座席キロ）	１４，９２３	１５，４７６	▲５５２	９６．４
旅客キロ（百万人キロ）	９，０８２	９，２９９	▲２１６	９７．７
利用率（%）	６０．９	６０．１	０．８	―――

③国際線旅客事業

・欧米線のビジネス需要が前期に引き続き堅調に推移しているものの、食の安全の問題や四川大地震などの影響で中国線の需要が低迷し、旅客数はわずかに前期を下回りました。

・一方、前期からのアジア路線ネットワークの拡大、羽田＝香港線の新規開設や価格競争力の高い新運賃スーパーエコ割を設定するなど需要喚起に努めました。

結果として、国際線旅客収入は前期比１０２．８％の２１億円の増収となりました。

（売上高の億円未満は切り捨て）

【国際線旅客事業】	平成２１年３月期 第１四半期	平成２０年３月期 第１四半期	増減	前年 同期比(%)
売上高（億円）	７８５	７６３	２１	１０２．８
旅客数（千人）	１，１４８	１，１５３	▲　５	９９．６
座席キロ（百万座席キロ）	７，０８７	７，０２３	６３	１００．９
旅客キロ（百万人キロ）	５，１２２	５，１６７	▲　４５	９９．１
利用率（%）	７２．３	７３．６	▲１．３	―――

④貨物事業

・国内線は4月搭載分より運賃体系を改定し、顧客ニーズを的確にとらえた運賃設定で単価が改善するとともに、低需要時間帯の販売が増加し収益性が向上しました。

・国際線は、日本発輸出貨物需要が伸び悩んだものの、「アジア・中国地区」と「北米・欧州」間の需要の取り込みにより、輸送量は前期比で大幅に増加しました。

結果として、国内線、国際線ともに輸送重量、売上高ともに前年同期実績を上回りました。

（売上高の億円未満は切り捨て）

【貨物事業】		平成21年3月期 第1四半期	平成20年3月期 第1四半期	増減	前年 同期比(%)
国内線	売上高（億円）	80	73	7	109.8
	輸送重量（千ﾄﾝ）	113	108	5	104.9
	輸送量（百万ﾄﾝｷﾛ）	110	105	5	105.4
国際線	売上高（億円）	196	167	29	117.7
	輸送重量（千ﾄﾝ）	98	78	20	125.6
	輸送量（百万ﾄﾝｷﾛ）	459	380	79	120.8

（2）連結財政状態

・資産の部では、航空機の更新に伴い固定資産が減少した一方で、燃油及び為替ヘッジに係るデリバティブ資産の残高が大幅に増加しました。

・有利子負債は、新規の借入及び社債の発行により437億円増加しました。

・自己資本は878億円増加の5,408億円、自己資本比率は28．7%となりました。

（金額の億円未満は切り捨て）

【連結財政状態】	平成21年3月期 第1四半期	平成20年3月期	増減
総資産（億円）	18,819	17,833	985
自己資本（億円）（注1）	5,408	4,529	878
自己資本比率（%）	28.7	25.4	3.3
有利子負債残高（億円）（注2）	8,116	7,678	437
D／Eレシオ（倍）（注3）	1.5	1.7	▲0.2

注1：自己資本は純資産合計から少数株主持分を控除しています。

注2：有利子負債残高にはオフバランスリース負債は含みません。

注3：D／E レシオ＝有利子負債残高÷自己資本

⑶ 連結キャッシュ･フローなどの状況

･営業活動によるキャッシュ･フローは、税金等調整前当期純利益に、減価償却費や税金の支払などの調整の結果、３８８億円の支出となりました。

･投資活動によるキャッシュ･フローは、航空機関連の投資などを行った結果、１５３億円の支出となりました。

･財務活動によるキャッシュ･フローは、借入金の返済を進める一方、新規の借入や社債発行より資金調達を行った結果、３４１億円の収入となりました。

単位：億円（億円未満は切り捨て）

【連結キャッシュ･フローなど】	平成２１年３月期 第１四半期	平成２０年３月期 第１四半期
営業活動によるキャッシュ･フロー	▲　３８８	３１０
投資活動によるキャッシュ･フロー	▲　１５３	２，０３０
財務活動によるキャッシュ･フロー	３４１	▲　８４１
現金および現金同等物期末残高	１，５９８	３，２２３
減価償却費	２７７	２１９
設備投資額	３２５	６７４

２．通期の見通し

･国際線旅客事業、国際線貨物事業は、引き続き収益基盤の確立に向け、より一層の利益成長を実現できる見込みです。

･国内線旅客事業は、より効果的なネットワークの構築を図るとともに、ビジネス需要の取り込みや競争力のある運賃政策によって需要喚起を図ります。

･原油市況の高騰は続いており先行きは楽観視できませんが、企業価値向上に向けて費用削減などの経営努力を継続してまいります。

かかる状況から、平成２１年３月期の通期業績予想は、期初予想を据え置いております。

単位：億円（億円未満は切り捨て）

【平成２１年３月期見通し】	期初予想	前期実績 （平成２０年３月期）	増減
営　業　収　入	１５，１００	１４，８７８	２２１
営　業　利　益	８００	８４３	▲　４３
経　常　利　益	５２０	５６５	▲　４５
当　期　純　利　益	２７０	６４１	▲３７１

以上